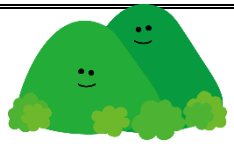
学校教育目標 『気づき　考え　行動する』 ～自分たちの学級・学校は、自分たちでつくる～

小島小学校だより
第９号

金峰山



令和6年６月１０日
文責　小山 恵子

熊本市立小島小学校
www.kumamoto-kmm.ed.jp

４日（火）全校集会での校長講話を聞いて、子どもたち一人一人が何かを感じ取ってくれたようです。感じたこと、考えたことが行動化につながることを願います。

〇全校集会でつっちょさんの中学生の時の話がありました。「赤毛のロッソ」という曲を聞いて、ひどいことをされて苦しい思いをしていたことが分かりました。でも、勇気を出して「やめて。」と言えたことがすごいなと思いました。

〇家に帰って、全校集会で話があった「赤毛のロッソ」を見ました。ぼくはみんなと仲良くしたいと思いました。何かあったら相談したいです。

七月四日の講話「スマホをめぐる子どもたちの現状」の講師、戸田俊之先生はルーテル大学ではなく、真和高校の先生でした。

アタッチメント

「アタッチメント（愛着）」という言葉を最近よく耳にします。
子どもの本能的な欲求に目を向けた子育てで、くっついて安心感に浸りたいという欲求が満たされると子どもの心や行動が安定するというものです。

先日、NHK の番組で特集がありました。よく癇癪を起こす子ども（幼児）に対して、１日最低５分、子どもの遊びに寄り添う、見守るだけで感情を爆発させる行動が減っていく様子が紹介されました。

１日たった５分で癇癪が収まるの？　と思いましたが、親が子どもに関心を寄せることで子どもは安心するのだそうです。　見守る際の注意↓
「こうした方がいいよ」「こっちの方がいいんじゃない」など、あれこれ口出しするのは NG。スマホを見ながら、テレビを見ながらなど、「ながら」も NG。５分間、ただただ子どもを見守る。「よくできたね」「すごいね」など誉め言葉は OK。「〇〇しているんだね」「〇〇をつくったんだね」など、子どもの遊びを言葉にするのも OK。

「僕・私のことを見てくれている」という安心感が子どもの成長過程において必要かつ重要で、特に幼少期が大事という話でした。ただ、小学生からでも遅過ぎることはないそうです。膝の上に座らせたり（中学年までかな）、ぎゅーっと抱きしめたりするのもいいですね。

子どもは親にかまってほしい、話を聞いてほしい、注目してほしいものです。１日５分、やってみませんか。